

江戸川大学国立公園研究所から

執筆担当・宮地信良

公園利用を取り巻く 状況の変化

令和二年に発表された「今後の自然公園制度のあり方に関する提言」でも触れられているとおり、地方の過疎化、都市への人口集中、少子高齢化とデジタル化の進展という現在の社会情勢の変化の中で、令和三年に利用の質の向上を主眼とする自然公園法の改正が行われた。

これによって、例えば施設を伴わない自然体験活動、有料だが上質な歩道、ガイドが付かなければ入れない森……といった新たな利用手法に道が開かれたといつて良い（このあたりの詳細については国立公園雑誌No七九五「江戸川大学国立公園研究所から（中島慶二）」を参照されたい）。提言や法の改正によって「容れ物」は用意されたわけだが、そこに盛る「料

理」を考えるのはこれからの仕事である。ここでは日光国立公園を例に、新しい「料理」を二つほど提案してみたい。

新しい利用形態①

「自然の中でゆっくり時を過す」
「日本人の旅行者は一日中動き回っている」と言われてきたが、最近では「自然の中で時を過すこと」と「自体を楽しむ人が増えつつある」と感じている。自然体験活動と聞くと自然観察やバードウォッチング、あるいはカヤックなどを使つたアウトドアスポーツを思い浮かべる人が多いだろう。しかし、考えてみれば自然の中でただゆっくりと流れる時間を楽しむことも立派な自然体験活動である。国立公園が長期滞在や高齢化への対応を目指すならば、今後はこのような利用を特に重視する必要がある

具体化イメージ① 「中禅寺湖湖畔・リラクゼーションの浜」

場所…奥日光中禅寺湖畔・英国／イタリア大使館別荘の南側一帯
風景…風景を重視する英国人が中禅寺湖のベストポイントとして選んだ英国大使館周辺の湖畔は、白根山を正面に、最も奥深い中禅寺湖の風景が望める地点である。

利用環境…細い舗装道路が通っているが、入口にゲートを設けて一般車は通行止めになっており、アプローチは徒歩のみである。このことがここを魅力的な場所になっている。また近年、当該地に遊覧船桟橋が新設され、船での「離島感が味わえる」来訪も可能になった。

利用の形…浜と道路との間に横長の大きなウッドデッキ（リラクゼーションテラス）を設け、上質の防水ソファと小テーブルを配置する。また道路山側にはレックビュール・カフェや樹上テント、湖上には水上テント等、さまざまな形の「自然の中で時を過す」しつらえを用意する。
事業主体と管理運営…実施主体は民間。各施設とも有料利用とする。



リラクゼーションテラスのイメージ



水上テントのイメージ

う。
自然の中でゆっくりした時を過すには「優れた風景」と「静穏な利用環境」の二つが不可欠である。したがってこれは国立公園にこそふさわしい利用とも言える。

本来このような利用に施設は必要ないが、新しい利用をアピールするために注目度の高い施設を伴った場をつくることは有効であろう。

新しい利用形態②

「道から外れて森を体験する」

日光は首都圏小学校の修学旅行のメッカと言われ、ガイド付きの野外活動が多く行われている。ハイキングのコースは圧倒的に戦場ヶ原湿原が多い。戦場ヶ原は観察対象が豊富で山々を見晴らす風景は優れたものであるが、木道から外れることができず、活動内容は自然観察のみになる。一方、森の中で倒木に乗ったり、冷たい水に入ったり、動物の痕跡を探したりする「森たんけん」などの体験的プログラムを選ぶ学校もある。初めはこわごわでも、終わった後の子どもの表情を見ると戦場ヶ原よりもこちらの方が明らかに満足そうな顔をしている。

「国立公園では道から外れてはいけない」というのが今までの常識であった。しかし現代の大きな課題は、「人が入って森を荒らす」ことよりも「自ら森に入る子ども

がいなくなった」ことではないだろうか。国立公園には回復力のある二次林や人工林も多い。道から

外れるのもOKの森を設定し、そこでゲームやスマホ漬けの子どもを動かすような本物の自然を

具体化イメージ②「奥日光・道を外れてOKの森」

場所…奥日光・光徳周辺の森

自然…おおむね平坦なミズナラ二次林とカラマツ人工林で、小さな湧水の流れ、水が涸れた川原、オタマジヤクシの水たまりなどが点在する。

利用環境…一軒の民間ホテルがあり、周辺の森にはホテルが管理するクロカンスキーコースが設けられている。このコースが網目状に広がっており、年数回の草刈りを行えばグリーンシーズンには森の各所に行く「歩道」として機能させることが可能である。

利用の形…新たな道の整備は行わず、既存の踏み跡やクロカンコースの刈り払いを年に数回行って維持する。その中でガイドが引率して、森や川の中でさまざまな自然体験を行う。（倒木上を歩く、ササをかき分けてクマダナを見に行く、川の流れに入る、動物の痕跡さがし等々）

事業主体と管理運営…森の管理は民間の事業者が行う。利用は登録したガイド事業者に限り、利用の際はガイド事業者が管理者に予約し、利用料を支払う。



森たんけんのイメージ1



森たんけんのイメージ2

体で知る機会を与える。これも国立公園の新たな役割であろう。この活動には柔軟なセンスをもったガイドが不可欠である。子どもをうまくリードするだけでなく、安全確保や自然保護上も欠かすことはできない。

今後への課題

現在の社会情勢の急激な変化から、「風景の保護」「保健」「休養」「教化」という自然公園法にうたわれている自然公園本来の目的が一段と重要性を帯びてきた。この目的を実現する推進力ともなる新たな自然公園利用を進めるためには、官民の協働と国有林の理解が極めて重要である。今までの慣例にとらわれることなく、各地で独創的な事例を積み重ねてゆく努力が求められている。

宮地 信良●みやじ のぶよし

環境庁（当時）で国立公園の現地管理、野生生物課勤務等のもと中途退職し、有限会社自然計画代表取締役として栃木県日光市で調査や自然ガイド業務を行っている。江戸川大学国立公園研究所客員研究員、日本スノーシューイング連盟副会長。